

4. 教育行政執行方針に基づいた主な施策・事業の取組状況、成果・課題等

(1) 学校教育（給食センター、小中学校含む）

○主な施策		
1. 確かな学力の向上について		
点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 全国学力・学習状況調査の実態を踏まえた基礎学力向上プラン等に基づく組織的な取組	<p>【小学校】 全国学力・学習状況調査や標準学力検査結果を踏まえて、課題のある領域を分析し、教職員全体で指導の充実を図るべく「学校改善プラン」を作成し共有するなど組織的な取組みに努めた。</p> <p>【中学校】 全国学力・学習状況調査や標準学力検査結果を踏まえて、授業改善のポイントを校内研究に位置付け、北海道教育委員会から「地域連携研修校事業」「学力向上推進事業」の実践校として指定を受け校内研修の充実や公開研究など、教職員全体で組織的な取組みに努めた。</p>	<p>【小学校】 課題のある領域を分析し、個別指導の充実等に努めたが、今後、全体的な学力の底上げを図るべく普通学級において支援が必要な児童へのきめ細かな指導が必要である。</p> <p>【中学校】 学校の持つ課題を明らかにして、課題解決のためカリキュラム・マネジメントに組織的に取組む必要がある。</p>
(2) 長期休業中の補充的な学習への取組	<p>【小学校】 社会教育事業の「あそびの達人特別教室」と連携し、大学生や地域との協力により朝の勉強会を行った。</p> <p>【中学校】 夏季・冬季休業中に、各3日の学習会を実施し、個別指導に対応するため学生ボランティアを活用した取組みを行った。</p>	<p>【小学校】 子どもたちの意欲的な取組みを図るべく、更に自ら進んで学習習慣の定着に取組む必要がある。</p> <p>【中学校】 長期休業中の補充的な学習について、地域の人材を活用した学習会を企画するなど、より組織的な取組みが必要である。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(3) 小・中・高等学校との 学校間交流の充実	教育研究協議会を通して、小・中学校外国語指導や理科指導について交流を図るとともに、小学校では南幌養護学校との訪問学習により、異校種間との交流に努めた。	小・中学校が連携して授業交流が図られるよう努めたが、高等学校との授業連携には至らなかったため、今後は学校間交流の充実を図るべく、相互乗り入れ授業について協議検討が必要である。
(4) 公設学習塾の開設準備	平成30年度の開設に向けて、各学校の管理職及び教務主任と教科選定、実施方法などの検討を行うとともに、先進地自治体からの情報収集、各民間学習塾の聞き取りにより制度設計を図るなど、円滑に開設準備を行うことができた。	今後、児童生徒の基礎学力と学習意欲の向上、家庭学習の定着を図るためには、学校と民間学習塾の連携、保護者との協力が必要であることから、公設学習塾開設後もアンケート調査や協議の場を設け検証することが必要である。
(5) 家庭学習や学習習慣の 定着	<p>【小学校】 自主的な家庭学習の継続・習慣化に向け、保護者会などを通じて、家庭学習の方法についての助言や学校だよりを用いた家庭学習の実態についての調査結果の周知と啓発に努めた。</p> <p>【中学校】 生徒に「家庭学習チェックシート」を配布し、家庭学習の定着に努めるとともに、「家庭学習の手引き」を作成し、各教科の特性に応じた家庭学習方法について指導を行った。</p>	<p>【小学校】 今後も児童の努力や成果を認め、継続することで得られる満足感や達成感、学力の向上が実感できるような取組みを進めるとともに、家庭との連携を一層強め、児童の生活習慣の見直しを図ることが必要である。</p> <p>【中学校】 家庭学習の内容がノートの提出のみに留まることなく、家庭学習の内容について理解するよう指導していく必要がある。 また、生活習慣の見直し、チェックシートのデータをどのように生徒指導へ活用を図るのか検討する必要がある。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
<p>(6) 外国語指導助手による基礎的・実践的なコミュニケーション能力の育成</p>	<p>【小学校】 5・6年生の外国語活動の時間で言語を通して行うコミュニケーション能力の育成を図ることができた。また、1・2年生は生活、3・4年生は総合的な学習の時間において、異なる言語や文化への理解を図ることをねらいとして英語に直接触れる機会の確保に努めた。</p> <p>【中学校】 英語科の授業において外国語指導助手を活用し、話すことや読解能力向上を目的として、英語によるゲームを取り入れた授業を行うことにより、コミュニケーション能力の育成に努めた。</p>	<p>【小学校】 低学年から英語の音声やリズムに慣れ親しみ、実際の生活場面を想定したプログラムを多く取り入れることにより、実践的に英語を使う機会・能力の伸長が図られた。また、授業を通して生活習慣の違いなどを知り、文化等に対する理解を深めることができた。</p> <p>今後、学習指導要領の改定を見据え、教員の英語指導力向上に向け研修を行う必要がある。</p> <p>【中学校】 外国語指導助手の活用のみならず、英語教員の指導力向上研修によるコミュニケーション力を高める授業構成を組織的に行う必要がある。</p>
<p>(7) 国際社会で活躍できる人材育成のための「中学生国際留学プログラム事業」の実施</p>	<p>カナダ・バンクーバーにおいて、2週間の短期留学を実施し、中学生10名が地元大学での英語レッスンやホームステイによるホストファミリーとの生活体験を行った。また、留学前に行われた事前の英語レッスンでは、外国語指導助手による英会話指導を受け実践に繋がる英語力の向上に取り組んだ。</p>	<p>中学生国際留学プログラムの研修報告書を作成し、町広報及びHPに掲載するとともに、「青少年健全育成を考える集い」「あそびの達人教室」において体験発表を行ない、成果について広く町民に伝えた。本事業の参加を目標に小学校高学年から英語検定を受検するなど、英語への学習意欲の向上に繋がった。</p> <p>国では英語検定3級以上の取得率50%を目標としていることから、今後、取得状況などを見据え、本事業の内容を検討する必要がある。</p>

2. 豊かな心と健やかな体の育成について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
<p>(1) 学校の教育活動全体を通じた道徳教育の推進</p>	<p>【小学校】 副読本や資料を多用した授業により、実践的行動力を高め、日常の場面において規範意識を指導することに努めるとともに、保護者や地域の方々と児童の心をはぐくむことを目的として、参観日を利用して道徳の授業公開を行った。</p> <p>【中学校】 道徳教育における全体計画や道徳の時間の年間指導計画を見直し、道徳教育が実践できるよう整備を行うとともに、全学級の道徳授業公開を行い、道徳の授業について外部からの意見も取り入れながら、指導法や評価について研修を行った。</p>	<p>【小学校】 道徳教育における指導計画の整備と実施に向け、職員の共通理解を図るとともに、学校だけではなく、家庭でも「豊かな心」を育成することの大切さを共通認識する手立てを講じる機会を増やす必要がある。</p> <p>【中学校】 時間の展開や具体的な指導法、評価の仕方など、一層研修を深め、教科化に向けて準備する必要がある。</p>
<p>(2) いじめ問題における迅速かつ組織的な取組</p>	<p>「南幌町いじめ防止基本方針」に則した取組みや、年2回の「いじめの把握のためのアンケート調査」を実施し、結果に基づく実態調査や教育相談を行うことで、いじめの未然防止や早期発見、早期対応に努めた。</p>	<p>いじめは、どこの学校でも起こりうるということを認識し、あらゆる機会を捉えて継続的に指導していくとともに、南幌町いじめ問題対策連絡協議会との連携を密にして、組織的に取組むことが必要である。</p>
<p>(3) いじめに対して子どもたちが主体的に考える「仲間づくり子ども会議」の開催</p>	<p>小・中・高校生の児童生徒を主体とした「仲間づくり子ども会議」を開催し、「いじめ防止・根絶」をテーマとしたポスター等を作成し、各学校・公共施設に掲示し啓発を行った。</p>	<p>「いじめ防止・根絶」には小・中・高校生の意識づけが重要であることから、今後においても「仲間づくり子ども会議」を継続して実施し、いじめ防止に取組むことが必要である。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
<p>(4) スクールカウンセラーによる児童生徒の心のケア</p>	<p>【小学校】 定期的に特別支援教育コーディネーターと連携を図り、児童や保護者のカウンセリングを行った。</p> <p>【中学校】 週1回、生徒指導主任とスクールカウンセラーが連携し、生徒や保護者のカウンセリングを行うことで、個々の状態に応じて個別の指導計画を立てることができた。</p>	<p>【小学校】 課題のある児童や、それを抱える保護者への適切な指導・助言を行うことができた。 今後も中学校との連携を図り、小・中学校にまたがる支援体制を維持する必要がある。</p> <p>【中学校】 生徒や保護者への対応はもとより、個別の指導計画等の評価をより一層活用していく必要がある。</p>
<p>(5) 全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果を踏まえた体力づくりの推進</p>	<p>【小学校】 新体力テストの実施及び運動会やマラソン大会などでの練習時間確保による運動能力向上に取り組むとともに、学力向上とも関連させ、生活習慣の実態把握と改善策を家庭と共有することで児童の生活習慣の改善に繋げることができた。</p> <p>【中学校】 体育の授業において、指導の方法や指示の仕方、個に応じた課題の提示等の工夫を図るとともに、全校球技大会など全校で体力づくりに取り組んだ。</p>	<p>【小学校】 新体力テストの結果を、授業での体力向上の取組みに生かすことができた。 運動する楽しさや喜びを実感した児童が多く、外遊び等で積極的に体を動かす習慣の形成や、良好な人間関係づくりにも効果があった。</p> <p>【中学校】 調査段階で生徒の状況が把握できるため、体育祭や部活動の指導においてもデータを活用できるかどうかを検討するとともに、「どさんこ中学生元気アップチャレンジ」へ応募し、親しみやすく運動する態度を育成していく必要がある。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(6) 学校給食における地元農産物の活用と保護者負担の軽減	<p>学校給食に南幌産の米や小麦、野菜等をより多く取り入れることで、食材への感謝や主要農産物に対する理解を深め、学校給食を通じた食育の充実に努めた。</p> <p>また、米や麺、パンといった主食の費用を全額町が負担した。</p>	<p>南幌産米使用100%を維持するとともに、南幌産の小麦や野菜等の使用割合を増加させることができた。</p> <p>今後においても、地元農産物の活用を通じた食育を推進するため、使用割合を維持または増加させる必要がある。</p> <p>また、主食費用を町が負担することで保護者負担を軽減することができた。</p>

3. 開かれた学校づくりと教育活動の充実について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 学校運営の改善に向けた学校関係者評価の実施	<p>【小学校】</p> <p>学校での自己評価や保護者によるアンケート評価を実施するとともに、結果について学校評議員会や学校関係者評価委員会の場で協議・検討することで、学校運営の改善に生かすことができた。</p> <p>【中学校】</p> <p>学校関係者評価委員会を年2回開催し、学校評価の妥当性、信頼性を高めることができた。</p>	<p>【小学校】</p> <p>広く学校の状況や自己評価結果を公開することで、学校・地域双方向の交流が生まれ、保護者や地域の方々が積極的に学校に関わることにより、教育の充実と児童の「感謝する心」の育成に繋げることができた。</p> <p>【中学校】</p> <p>学校の教育活動の成果について校内外で共通理解が図られるように、評価項目等も含め、常に見直していく必要がある。</p>
(2) コミュニティ・スクールの導入に向けた取組	<p>平成30年度の導入に向け、推進委員会を3回開催したほか、全国研究大会の参加や教職員を対象とした研修会を開催し、コミュニティ・スクールに対する理解を深めるとともに、学校運営協議会への移行を円滑にするため、コミュニティ・スクールの目標・ビジョン、スローガンを決定した。</p>	<p>推進委員会を通じてコミュニティ・スクールの必要性や役割に対する認識を深め、学校運営協議会への移行を円滑に進めることができた。</p> <p>コミュニティ・スクール導入後においても、学校運営協議会を主体として小・中学校との連携を密にして取組む必要がある。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
<p>(3) 児童生徒の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進</p>	<p>【小学校】 地域の豊かな教育資源を活用し、バケツ稲や教育田、世代間交流も含めた体験的な活動を行い、「ふるさと南幌」を児童自らが考える教育の充実に取組んだ。また、町内の公的機関や工場見学などの職場見学に取組んだ。</p> <p>【中学校】 総合的な学習の時間の年間指導計画において体験活動や地域と連携を図った活動を行うとともに、自分はどんな仕事に向いているのか適性・適職の発見に導くキャリアカウンセラーを職業学習に招聘して3年間を見通した指導を行った。</p>	<p>【小学校】 児童が自ら課題を設定し、自ら解決していくための授業に取り組むことができた。また、保護者や地域の方々の積極的な協力により、働くとはどういうことかを考えるきっかけにも繋がった。今後は総合的な学習の時間などを推進するにあたり各教科の授業時数の調整が必要となってくる。</p> <p>【中学校】 各学年での対応で終わらせるのではなく、3年間を見通した系統的な計画、総合的な学習の時間の目標を的確に把握し、適応していくなど、柔軟に対応する組織づくりが必要である。</p>
<p>(4) 特別支援教育学習支援員の配置による児童生徒の学習や学校生活の支援</p>	<p>小・中学校に特別支援学習支援員(小学校4名、中学校2名)を配置し、普通学級に在籍する支援が必要な児童生徒に対して、個々の状況に合わせた指導及び支援を行った。</p>	<p>児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を、今後も継続して実施する必要がある。</p>
<p>(5) 教職員の体罰や飲酒運転などの不祥事の根絶に向けた取組み</p>	<p>【小学校】 事例研修や、資料配布により体罰防止の意識を高め、体罰調査の機会を活用した実態把握を実施した。</p> <p>【中学校】 校内研修の実施や「南幌中学校安全運転の誓い」を職員全員の署名を掲載することで、意識を高めることができた。</p>	<p>小・中学校のそれぞれの取組みにより不祥事の根絶に努めたが、今後も服務規律の徹底について、より一層研修を深め、意識を高めていく必要がある。</p>

4. 教育環境の充実について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 町独自の加配による小学校少人数学級の導入	「南幌町立南幌小学校適正規模・適正配置基本方針」に基づき1学年2学級以上維持できるよう、町独自による教員1名の加配を行った。	町独自の加配を行うことで、小学校第3学年の2学級を維持し、きめ細かな指導を行うことができた。今後も少子化の影響により、少人数の学年が増えてくることが予想されるため、人材確保など計画的な導入が必要である。
(2) 「高等学校等通学費補助事業」の実施	高等学校等に通学する生徒の保護者で南幌町に居住する者に対し、通学方法によらず学校ごとに一定額の補助とする見直しを行うことで、更に保護者の経済的負担軽減を図ることができた。	広報等による制度周知を行うことで、交付対象者の支給率は93.3%となり、年々支給率が増加している。 今後においても制度の定着が図られるよう周知・啓発を行う必要がある。

5. 南幌高校に対する支援について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 魅力ある高校づくりに対する支援	南幌高校振興協議会を通じ資格取得に対する助成の継続実施や、進学入学補助や進学祝い金補助を実施するとともに、地域への奉仕活動など特色ある活動を町広報誌で紹介するなど、魅力ある高校づくりに対する支援に努めた。	資格取得や進学入学補助などの支援を継続することで、生徒の受験意欲の向上に努めたが、依然として高校の入学者の増加を図ることができず厳しい状況にある。募集停止案が示されたが、今後においても、南幌高校に対する支援を関係機関と協議しながら進める必要がある。

6. 姉妹町児童交流の推進について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
<p>(1) 熊本県多良木町との児童交流学習事業の実施</p>	<p>両町それぞれ、訪問団15名(児童10名・引率者5名)が参加し、夏季に多良木町の訪問、冬季に多良木町からの訪問団を受入れ、民泊の実施、各町での特色ある学習活動などを実施し相互の児童交流を図ることができた。</p>	<p>児童の募集では、12名の応募があり、抽選で参加者を決定するなど姉妹町交流の定着が図られている。</p> <p>受入時には、小学校において全校集会で全児童と交流したほか、青年団体や民泊家庭の協力を得て、北国ならではの体験や家族ぐるみの交流が図られた。</p> <p>また、事業に参加した児童の家族の中で、事業終了後に多良木町を訪問した家庭もあり、児童交流を契機に姉妹町としての広がりが図られている。</p>

(2) 社会教育

○主な施策

7. 子育て・家庭教育の支援について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 家庭教育に関する親学講座の開催	みどり野幼稚園や小・中学校と連携を図り、入学説明会や幼稚園の参観日において、講師を招いての講話や家庭教育に関する情報提供を行った。 また、PTA連合会との共催による「青少年健全育成を考える集い」においても家庭教育に関する情報提供を行った。	学校行事等に合せ学習機会を設定することにより、多くの保護者などに家庭教育の学習機会を提供することができ、また、みどり野幼稚園と共催することで、発達段階の早い段階での保護者への学習機会を提供することができた。
(2) 子育ての不安を解消できる相談・支援体制の充実	生涯学習サポーターの協力のもと「すくすく広場」や、乳幼児健診を活用した「子育てメソッド」などの事業を実施し、子育て中の親が子育て経験者や元教員などに気軽に相談できる場を設け、子育て支援の充実に努めた。	生涯学習サポーターの協力を得て、子育て支援事業を実施することにより、子育ての経験者が保護者への助言や身近な悩み相談の機会ができ、子育て支援の充実に努めた。

8. 青少年健全育成の推進について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 放課後子どもプラン推進事業の実施	放課後等における児童の安全安心な居場所づくりを推進し、児童が多様な学習や体験ができるよう、小学校や生涯学習サポーターと連携協力し「あそびの達人教室」や「なんぼろMANABI家」「週末支援テニス教室」などを実施した。	生涯学習サポーターや教員、読み聞かせサークル、かるた同好会などと連携を図りながら活動を企画、実施することで、安全・安心な環境の中で、多様な学習や体験をすることができた。

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(2) 関係団体との連携協力した青少年問題に対する取組	小・中・高等学校や関係機関、団体の代表者で組織する青少年健全育成協議会の開催や、PTA連合会との共催による「青少年健全育成を考える集い」を実施し、青少年問題に連携協力して取組んだ。	青少年健全育成協議会においては、関係団体と課題や問題点などの情報の共有、祭典時における子ども達の見守り活動を行い健全育成に取り組むことができた。 また、「青少年健全育成を考える集い」では青少年問題と電子メディアの関わりについて、参加者間において課題を共有し意識啓発に努めた。
(3) 子どもたちの社会性や創造性を育む機会の確保と充実	子ども会育成連絡協議会と連携し、ニセコでの自然体験活動や三重湖での子どもリーダーキャンプ、たくみ祭りでの世代間交流などの子どもリーダー養成事業を通じて、子どもたちの社会性や創造性を育む機会を創出した。	子ども会育成連絡協議会の各事業やさわやかカレッジとの世代間交流を通じて、大学生や地域の大人と接する機会を拡充することで、子どもたちの社会性を育むとともに、自然体験やたくみ祭りの内容を企画することで、創造性を育む機会を確保することができた。

9. 生涯学習、社会教育の推進について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 生涯学習センターを拠点とした町民が自主的・主体的に学ぶことのできる環境づくり	参加者が自主的・主体的に学ぶことができるよう「さわやかカレッジ」や「ふるさと南幌みらい塾」の開催にあたっては、アンケート調査やふるさと南幌みらい塾運営委員会、さわやかカレッジ自治会と実施内容や運営方法などを協議し事業を開催した。	「さわやかカレッジ」では、アンケートをもとに自治会において活動内容を精査するなど、自主的・主体的な学習が図られるよう取組むことができた。 「ふるさと南幌みらい塾」では、参加者からのアンケート結果を運営委員会で検討し、新たな講座の実施など自主的な運営を図ることができた。

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(2) 町民が生きがいをもって活躍できる機会の創出	<p>「生涯学習推進基本構想」に基づき、行政内における生涯学習に関する情報共有や連携協力を推進するため、生涯学習推進本部会議を開催した。</p> <p>また、「ふるさと南幌みらい塾」や「放課後子ども教室」を中心に、各分野で技術や知識を持った地域の人材を講師や指導者として活用した。</p>	<p>行政内で日程や内容の重複する事業について、生涯学習推進本部会議において情報共有を図ることや、今後より効果的な事業運営を進めるための課題に取り組む必要がある。</p> <p>また、地域の人材を広く活用することで、多様な学習の機会の創出や子ども達との交流や体験の場を広げることができた。</p>

10. スポーツ・レクリエーション活動の推進について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) スポーツ推進委員や関係団体と連携協力した各種スポーツ大会やスポーツ教室の開催	<p>各ミニバレーボール大会をスポーツ推進委員が中心となって企画・運営を行ったほか、新規事業のジュニアアスリートクラブにおいて、各スポーツ少年団の指導者とスポーツ推進員が指導者となり、運動指導を行った。</p>	<p>ジュニアアスリートクラブでは、スポーツ推進員や各スポーツ少年団の協力により、より専門的なスポーツの体験や、スポーツに親しむことの必要性などを普及・指導することができた。</p> <p>人口減少や少子化が進む中、幅広い層にスポーツに親しんでもらうため、今まで以上にスポーツ推進員や関係団体が連携協力し、事業を進める必要がある。</p>
(2) 低年齢からスポーツに親しむ環境づくり	<p>幼児を対象としたキッズスポーツ教室や小学校低学年を対象としたジュニアアスリートクラブの実施により、幼少期から継続的にスポーツに親しむ環境づくりに取り組んだ。</p>	<p>キッズスポーツや小学校低学年を対象としたジュニアアスリートクラブ、スイミングスクールなどの実施により、低年齢からスポーツに親しむ環境をつくり、将来的な子ども達の体力向上に繋げることができた。</p>

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(3) 町民プールを活用した幅広い利用者層への事業の実施や利用拡大に向けた環境づくり	<p>町民プールを活用した、スイミングスクールやアクアエクササイズなど、幅広い年齢層を対象とした教室を実施したほか、夏休み期間中の「子ども優先時間」の実施により、より利用しやすい環境づくりに取組んだ。</p> <p>また、保健福祉課との連携により、水中ウォーキング教室を実施し、利用拡大に取組んだ。</p>	<p>事業の拡充や、より利用しやすい環境づくりに努めたが、利用者数の増加には繋がらなかった。</p> <p>更に利用者のニーズを把握し、新規事業の検討や施設の利用促進のためのPRを進める必要がある。</p>

1 1. 芸術・文化活動の推進、ふるさとの記憶の保全について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 関係機関との連携協力した優れた芸術鑑賞の機会の提供	<p>文化協会主催の町民総合文化展や芸能発表会等の実施において、相互に連携協力し実施した。</p> <p>また、幼稚園・保育園や小学校、文化協会と連携を図り、幼児から一般町民までを対象とした芸術鑑賞会を開催した。</p>	<p>文化協会と連携することにより、より多くの町民に発表の機会を提供することができ、文化活動の活性化に繋がった。</p> <p>また、芸術鑑賞会を開催することにより、優れた芸術に触れる機会をより多くの町民に提供することができた。</p> <p>今後、中学校とも連携し鑑賞の機会を検討する必要がある。</p>
(2) 郷土芸能団体を支援し、地域に根ざした芸術・文化の推進	<p>「南幌音頭」においては、文化協会との連携協力により講習会の開催や催事などにおいて出演の場を提供した。</p> <p>また、「俵つみ唄」や「南幌太鼓」においても小学校での芸術鑑賞会や各催事などにおいて出演の場を提供した。</p>	<p>各事業や催事などにおける出演の場を提供することにより、多くの町民に郷土芸能に対する理解を広めるとともに、伝承する機会の拡充に取組んだ。</p>

12. 読書活動の推進について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
(1) 誰でも気軽に集える生涯学習センター図書室の運営	<p>年次計画に基づき、新刊図書の購入や案内、書架等の備品を購入し、読書環境の充実に努めるとともに、「一日司書体験」や「図書室読み聞かせ」などを実施し、より身近に感じる図書室運営に努めた。</p> <p>また、他の公共施設や学校と連携協力を図り、ふるさと巡回文庫や学校代理貸出を実施し、読書環境の充実に努めた。</p>	<p>図書室内において各事業を実施することで、より身近で気軽に立ち寄ることのできる読書活動の拠点施設として定着してきている。</p> <p>また、今後も図書室での利用サービスや読書活動事業への利用者・参加者が増えるよう更なる工夫が必要である。</p>
(2) 読み聞かせサークルと連携した事業の実施	<p>読み聞かせサークルとの連携により、創作活動の「はるのおはなし会」や「人形劇のつどい」の開催、保育園や幼稚園での絵本の読み聞かせ、小学校での朝の読み聞かせ、ブックスタート事業などを実施した。</p>	<p>各事業の実施により子どもたちが読書に親しむ機会を提供することができた。</p> <p>読み聞かせサークルの活動の功績が全国優良読書グループ表彰を受賞し、サークル活動の関心を高めるきっかけとなった。今後も、読み聞かせサークルとの連携を深め、読書の普及に努める必要がある。</p>
(3) 新入学児童を対象としたブックスタートプラス事業の実施	<p>幼児を対象としたブックスタートから、新入学児童を対象に自ら本を選び、読書を楽しむためのきっかけづくりとして絵本を1冊プレゼントした。</p>	<p>児童に絵本をプレゼントすることにより、ブックスタートで芽生えた読書への興味を広め、自らの成長に合わせて選書し、幅広く読書活動に関心を高めることができた。</p>

1 3. 社会教育関係施設の充実について

点検評価項目	取組状況	成果・課題等
<p>(1) 管理運営体制の充実と利用環境の向上</p>	<p>各社会教育施設において、適切な管理運営を行い、より利便性が高く、利用者に満足してもらえる施設環境の整備に取り組んだ。</p> <p>また、スポーツセンターのバスケットゴール改修工事や農村環境改善センターのトイレ改修工事などの施設改修等を実施した。</p>	<p>各社会教育施設における管理業務の委託、計画的な修繕工事の実施や備品購入、利用団体との調整により、適切な施設運営を図ることができた。</p> <p>また、各施設の建築年数が経過していることもあり、長期的な修繕計画を策定していく必要がある。</p>

5. まとめ

この点検・評価の実施をもとに、施策の効果を検証し改善を図りながら、より充実した教育行政の実現に努めてまいります。